でなければならないということなのであります。

他の社会環境から来るところのさまざまな不如意な事柄があって、今すぐ私たちのからだの生命

しあわせは満ち足りた生命だと申しました。けれども、今の私たちには貧しさや病気や、その

ありませんか?

「大田のできないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっが満たされることができないとしても、せめて、道義的な魂の生命を満ち足らしめることによっ

い。虫のすだく声が聞こえます。どうやら秋の夜がふけて来たようです。では、皆様おやすみなさ虫のすだく声が聞こえます。どうやら秋の夜がふけて来たようです。では、皆様おやすみなさ

第十七話 ただ一つのこと

に、すなわち「善」を欲求するためにあるのです。「知る」ということはうれしいことですね。 と、すなわち「善」を欲求するために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、すなわち「美」となるはずの、この特神的活動の能力があります。そして知恵は知るために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、かいけながら、ご一緒に私たち自身の魂の奥底に入り込んで行くことにいたしましょう。 これをかれないとするなら、私たちはどんなことがあっても絶望することなく、この思索の旅を続けねばなりません。ちょうど考えるには一番適当な秋の半ばです。しみじみと自分の心に問いかけながら、ご一緒に私たち自身の魂の奥底に入り込んで行くことにいたしましょう。 これをかければなりません。ちょうど考えるには一番適当な秋の半ばです。しみじみと自分の心に問いかけながら、ご一緒に私たち自身の魂の奥底に入り込んで行くことにいたしましょう。 これがあります。そして知恵は知るために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、すなわち「真理」を追求するために、意志は愛するために、すなわち「真理」を追求するために、意志ということにいたしましょう。これがあります。

者が申しましたように、「人間とは『なぜ?』と問う動物」なのですね。 知りたい! 私たちは物心つくころからこの知りたい! という欲望にかられます。子供は何で そして神秘のベールをはぎとられて、白昼にさらされて来たことでしょうか?いや、何万年も ペルシャの古代文化の時代を経て現代に至るまで、なんとたくさんのことが学ばれ、研究され、 も尋ねるものです。「なぜ?」「どうしてなの?」「それからどうなるの?」まことに昔の哲学 1、人間がようやく石をもって簡単な武器や生活の道具などを作った石器時代から、エジプト、 遠く歴史を振り返ってみますと、人間は実にたくさんのことを知って来ました。何 万 年 かの

だけで少し気がへんになるようです。地球は丸いものではなくて平らかなもの、そして地球のま とたくさんの知識を獲得して来たことでしょう。日食や月食を見て天変地異の前兆だと言ってお さかのぼるまでもないこと、西暦紀元が始まってからのわずか二千年の間に、人間の知恵はなん わりを 太陽が回っているのだ、などと 言ったら今の 小学校の子供たちでも、プッと 吹き出すで しょうね。 雷におへそを取られると言って恐れた時代が、そんなに遠くない昔にあったと考える

だという雷の鳴り轟くわけを……、そして天の川と呼ばれる夏の夜空の銀河の意味する銀河系の 私たちは知ったのです。無気味な日食の神秘を……、地球自身が電気を帯びて放電しているの

宇宙のなぞを……。人間の知恵ははてしもなく巨大な大宇宙の中に、そのメスを突き込んだので

深い神秘をあばいたのでした。 成長し、どんなに不思議な生殖作用によって、次の世代を生み出すかを、すなわち生命の最も奥 うじがわく訳を……、そしてDDTや予防ワクチンで伝染病の経路を閉ざす術を知りました。更 気はすべて神のたたりだと信じました。けれど私たちは知ったのです。腐った肉片や便所の中に に私たちは動物の肺や胃や腸など、すべての内臓器官を白昼に取り出し、それがどのようにして 動物の死体には、ひとりでにうじがわくと昔の人はまじめに考えました。もっと昔の人々は病

141 はステレオ時代を迎えようとしています。大都会には自動車がはんらんし、各工場のオートメー りと実現しているのです。テレビがカラー時代に入り、映画はすべてワイルド化し、レコード界 大阪間、飛行機に乗って一時間と四十分、汽車に乗ってさえビジネス特急六時間半の夢があっさ れて一カ月、親子水盃を取りかわして旅をしたという時代がありましたのに、今日では東京、は、ついこの間まで人々が頭にチョンマゲを乗せ、江戸から京まで東海道五十三次をかごに揺らは、ついこの間まで人々が頭にチョンマゲを乗せ、江戸から京まで東海道五十三次をかごに揺ら 識を基礎とした新しい応用科学が、これまた恐ろしい勢いで発達して来ました。日本 に お い て 知識が、とくに自然科学の分野において新しい知識が発達すると共に、それに伴ってその新知

す。戦後立ち遅れた日本ではありましたが、今や、日本をも含めて私たちの住むこの地球の上に ます。あらゆる国々の航空会社の網の目のように交錯した航空路が、世界中の空をおおっていま ション化はもとより、各家庭にも電気冷蔵庫や電気洗濯機が主婦の仕事をスピードアップして は、滔々として最も高度な文明の波が押し寄せているように思われます。これがここ数十年来、 人間の知恵の成し遂げた成果でありました。そして、人間自身が自分自身の成し遂げた人知の進

につれて、少しは以前よりも、ましな存在になったとお考えですか?とうでしょう。ほんとう に卒直に言ってどうお答えになりますか? 歩の跡を振り返って、ただぼうぜんとして驚嘆しているありさまであります。 ん十万という人類の命を、そのせっかく築き上げた平和文化の産物もろとも一瞬にして阿鼻叫喚 て、その首長の首を血祭りに上げるというのと、なんの戦闘能力も持たない老人、子供を含むな に、はっきりと答えてみてくださいませんか? 皆様は、人間というものがこの文明の進歩発達 と廃墟に帰してしまう原爆を人類の頭上に落とすというのと、どちらが野蛮だとお思いですか? さて、皆様、ここで少し立ち止まって考えてみたいのです。皆様、どうぞ私の次の問いに卒直 なるほど、野蛮な食人種や首狩民族はいなくなりましたね。けれども、夜中に他の部落を襲っ

食人種の部落と部落とが鋭い槍の刃をといで、虎視眈々として夜襲の隙をうかがっている無気味

143 人間は依然として愚かです。もしかすると、何も知らなかった昔よりも、もっと愚かに、もっと うものが、科学の進歩や知識の発達につれて、少しでも昔よりは『しあわせ』になった。」 と皆 か? 私には、少なくとも私にはそうは思われないのです。人間は依然として不幸です。そして 様はお考えになりますか? あるいは「昔よりは少しでも『賢く』なった。」 とお考えでしょう とながら、それを阻止しようとして、子供たちの人格形成のための教育と指導に当たる教師たち 女が肉欲の市を開張し、色恋沙汰、刃傷沙汰の絶える間もない現代の世相を眺めて、「人間といすが肉欲の市を開張し、色恋沙汰、どんじょうでた の血税による数千万円がどこかに消えてしまったり、売春禁止法案もあってなきがごとく、闇の はずの大学生たちが、教室を占領して教授に暴行を働き試験拒否を唱える世相です。また、国民 音妨害など、更には、先生たちに教えを受け、その指導によって知識を学ぶために大学に入った 徳教育を政府のメンツにかけても、やりおおせてみせると張り切る、その政府のメンツもさるこ が、児童の登校拒否を策謀したり、スクラム組んでの摑みあいから、鐘や太鼓を持ち出しての騒 から、それは考えぬことにしましょう。日本の中のできごとだけでたくさんです。勤務評定や道 とお考えになりますか?いや、まさか、いくらなんでも、そんなことは起こるまいと思います に、躍起となっているいわゆる先進国同志の現状とを見比べて、どちらが野蛮で残酷で無気味だ なありさまと、ボタン一つで他国の全国民をズタズタに引き裂いてしまうミサイルの製造の競争

不幸になっているかもしれません。少なくとも昔の人々は原爆や水爆の恐怖を知らなかったので

すし、人類お互いが現代ほど激しい憎悪と猜疑でいがみ合った時代もなかったでしょうからね。

皆様、知りたいという欲望は無意味にあるものではありません。人間の胃袋が食物を欲求する

145

ないことをいたずらな好奇心を満足させるために、知ってみたところで魂は依然として飢え渇き るためであるはずです。その魂の糧を忘れ、ただ知りたいという欲求だけに追われて、必要でも れによって、魂の糧を取り入れ魂が成長し、胸ふくらむような内面的に充足した魂の生命を生き のは、それによって栄養を摂取して、成長して行くためでしょう。魂が真理を追求するのも、そ

必要でもないものを……と申しました。そうです。人間はよけいなことを少し知り過ぎたよう

人間は依然として不幸で愚かであるでしょう。

たからといって、それがいったい、なにになるのですか?それで人間の魂が満たされ、人類が たことのない月の裏側を知るでしょう。だが、はっきり申しますが、それが……月の裏側を知っ ロケットを飛ばそうとしています。近い将来成功するでしょう。そして、未だかつて人類が眺め が、しかし同時に、これだけは、はっきり断言いたします。今、人類は、その英知を絞って月に です。と言っても、私は決して科学を軽べつするものではないことをおことわりして おき ます しあわせになるというのですか? 一度、月の裏側の秘密をあばいた人類は、休む暇もなく今度

それよりもなによりも前に、全人類が今、すぐにでも、その知恵を正しく用いて知らねばならぬ むだなのです。否、知ることはかえって人々を不幸に陥れることになるのです。 満たすことのできる真理が……。そのたった一つの真理を見落としては、人間がなにを知っても ことが、一つ、そう、たった一つあるのです。ほんとうに魂の糧となる真理が、ほんとうに魂を とができる、あるいは、サハラ沙漠を肥沃な緑の平野に化することができる、というのに、それ し、月ロケット一つを作る費用があったなら、数百万の住むに家なき人々に暖かな家を与えるこ なるのですか? 私は重ねて申しますが、決して科学を軽べつするものではありません。しか は他のもっと遠い天体、火星や金星などの探求を始めるでしょう。そして、そしていったいどう だけの金を使って、今、急いで月世界を探険する必要がいったい、どこにあるのでしょうか?

でいるとも言えるのです。たった一つのことを人類は見落としている。その、見落としている、 たった一つの事実によって裏付けされぬ限り、人類の知恵は、もうこれ以上進んではいけないの どの、輝かしい科学の勝利が、そのまま直ちに、人類殺戮の恐るべき武器と変化する恐怖が潜ん ああ、そのたった一つのことを見忘れているというところにこそ、人工衛星や、月ロケットな

茂る秋の七草が、そして、あなたのお家の庭の片隅で、コロコロとすだく秋の虫が、あなたにそ しいことではありません。ただ、謙虚な気持ちになりさえするなら……そうです。もしも、あな つの真理に心を向けようではありませんか。といっても、それは、月の裏側を見るほどにむつか っとそれを教えてくれるでしょう。 たが、それを謙虚な気持ちで学びたいと望むなら、冷たく澄んだ秋の夜空の星々が、また、野に

皆様、人間の知恵がもうこれ以上愚かな迷いを続けぬように、今、改めてこの見落とされた一

を知ろうとしないのは、わずかな人知の成功に思い上がった傲慢な人間だけのようですね。 天地万物が……心ない天地の森羅万象でさえもが、それを知っているのです。ただひとりそれ

では皆様、また来週まで、ごきげんよう

さようなら。

驚い てみたい

驚いてみたい! 年たちが集まって、座談に花を咲かせているところでした。そのうちにひとりの青年が言いまし たが、最後になにも言わないひとりの青年に皆が尋ねました。「君はなにかしてみたいことがな いことはただ一つ、それは『驚いてみたい』ということだ。」と。 た。「君たち、今、一番なにがしてみたいと思うかね。」 次々といろいろな答えが飛び出しまし いのかい。」その青年は、そう言われてゆううつそうにただ一言答えます。「僕かい、僕のした 国木田独歩の小説の中に、次のような短篇ものがあったと記憶しています。なんでも数名の青

147 ね。フン、となにを見ても鼻先で軽くあしらってしまう不感症、それも現代病の一つかもしれま 「驚く」! そういえば現代人は「驚く」ということをどこかに置き忘れてしまった よう です

現代人の目からは、とにかく「不思議」というものは影を消してしまったようです。昔はいろ